

スペイン産カキの需要が年々増加

FreshPlaza 2023年12月5日

オランダの青果物販売業者フォーフルーツ社のピーター・デロイター氏は、「果実や野菜の販売は全般的に非常に足が遅い。ただし、現在は出荷量が多くないので、売れ残りもない。需要は鈍いが、価格は高い。例えば、スペイン産の施設栽培野菜などでそれが見られる」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「柑橘類の値段も高い。スペインの生産者は非常に満足しており、我々も品質に不満はない。しかし、モロッコ産が入荷するので、特に小玉では競争が厳しくなるだろう。今年はスペイン産オレンジの供給量が少なく、ナベリーナ種の価格は15~16ユーロ程度とかなり高い水準にある。品質も優れているが、数週間後にはエジプトもオレンジの出荷を開始するので、市場での競争が激しくなるだろう。」

「カキに関しては、サプライヤーのアネコプグループの予想では、木に残っていた多くの果実が強風で被害を受けたため、例年よりも収穫シーズンが短くなるようだ。第49週~第51週(12月の第2週~第4週)のカキの入荷量は約30%減少する見込みで、また、収穫シーズンも早く終わりそうだ。実際のところ弊社では、通常は1月に出す貯蔵したカキの販売を2週間前に開始した。」

「価格は5kg箱で8.50~9.50ユーロで悪くない。一般的に、カキは年々人気が高まっており、売り上げが伸びている。現在はベトナムではなくスペインから輸入しているピタハヤ(別名ピタヤ、ドラゴンフルーツ)などの果実も同様だ。しかし、すべての商品が成功するわけではない。例えば、キウイベリーの売り上げは全く伸びなかった。」

イタリア クラブリンゴ品種での連携を信頼

EUROFRUIT 2023年12月6日

イタリアのサプライヤーは2030年までに権利関係の有る品種が出荷量のほぼ3分の1に

管理されたライセンス制度の下で生産・販売されるリンゴ品種、いわゆるクラブリンゴ品種は、イタリア北東部に拠点を置くバル・ベノスタ果実・野菜協同組合連合会(VIP)の販売戦略の大きな部分を占めている。

その理由は単純である。アンブロシア、カンジ、エンヴィイ、コズミッククリスプ等のブランドは、ますます目の肥えた消費者に合わせて、味と風味を向上させている。さらに、世界の様々な地域で栽培することで、周年供給を維持することができる。

10年前、これらの管理されたリンゴ品種は、VIPの全出荷量のわずか1%を占めるに過ぎなかった。しかし、確立されたブランドと、イエロー(yello®)*、スイータンゴ、キッサベル、ポニータ、ナティラなどの新品种への大規模な投資により、この数字は2030年までに30%に達する勢いである。

このサプライヤーが昨年、最も有能な販売マネージャーの1人であるファビオ・ザネスコ氏にライセンス品種市場の開拓を任せることにしたのも不思議ではない。VIPチームの経験豊富なメンバーであるザネスコ氏は、いまやVIPだけでなく、様々な国際マーケティング連合の成功において重要な役割を担っている。

同氏は、「人脈作りは重要だ。クラブ品種の権利保有者だけでなく、VIP内のさまざまな人物、何よりもまず生産、営業、販売の各マネージャー、さらに他の生産コンソーシアム - これはクラブリンゴ品種に関して競争相手から連携相手になる - とも調整する必要がある」と説明する。

執筆者: マイク・ノールズ

* 訳注: yello®は長野県で開発されたシナノゴールドの商標で、イタリアの2団体(上記のVIP及びVOG(南チロル果実生産者協同組合共同事業体))が県と独占的販売契約を結んでいます。